

(12) 沖縄



沖縄地域では、景気は足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱い動きがみられる。

- ・ 観光は新型コロナウイルス感染症による影響があり、一段と弱含んでいる。
- ・ 個人消費は足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)

前回からの主要変更点

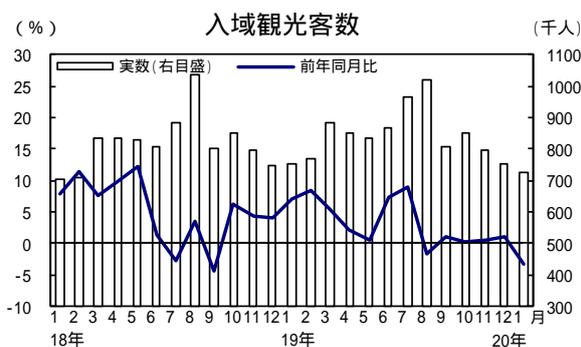
	前回(令和元年11月)	今回(令和2年3月)	
景況判断	着実に回復	足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱い動きみられる	
観光	増加	新型コロナウイルス感染症による影響があり、一段と弱含んでいる	
個人消費	堅調に増加	足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱含んでいる	
雇用	着実に改善	改善	

1. 観光の動向

観光は新型コロナウイルス感染症による影響があり、一段と弱含んでいる。

入域観光客数のうち、国内客について、10月は、大手旅行会社の沖縄旅行キャンペーン強化の取組があったことや、今年は即位礼正殿の儀の休日があったこと等から、前年を上回った。11月は、昨年のおきなわ技能五輪・アビリンピックの開催による反動等から、前年を下回った。また12月は、年末年始の旅行需要の高まりがあったこと等から、前年を上回った。1月は、前年を上回った。外国客については、10月は、韓国市場における訪日旅行自粛の動きや航空路線の減便があったこと等から、前年を下回った。11月は、クルーズ船の寄港回数が増加したこと等から、前年を上回った。また12月は、クルーズ船の寄港回数が増加したこと等から、前年を上回った。1月は、前年を下回った。

主要ホテルの10-12月期の客室稼働率は、那覇市内ホテル、リゾートホテルともに前年同期を下回っている。



入域観光客数等の動向

(単位: 千人、%)

	2019年			2020年
	4-6月	7-9月	10-12月	1月
入域観光客数	2,555	2,794	2,406	727.8
(前年比)	3.3	2.6	0.6	3.4
ホテル稼働率	78.9	80.2	72.4	
(前年差)	0.2	5.0	5.1	

(備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光政策課調べ。

2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

3. ホテル稼働率の前年差については、内閣府にて算出。

2. 個人消費の動向

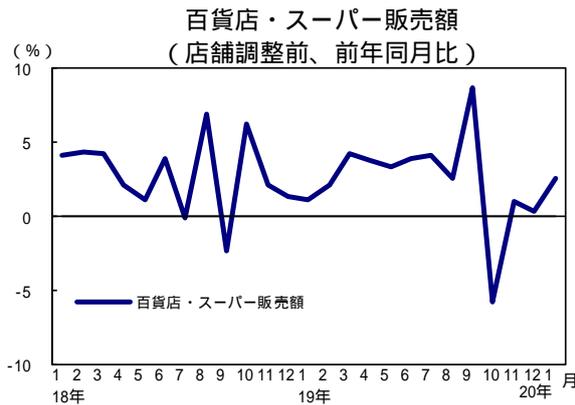
個人消費は足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱含んでいる。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前月比3.7%減、11月は同2.2%増、12月は同1.6%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

10月は、全体的に消費税率引き上げ前の駆け込み需要の反動がみられ、訪日外国人による化粧品の消費が鈍化したこと等から前年を下回った。11月は、お歳暮ギフトの好調、酒や鮮魚の増加やセール効果がみられたことなどから食料品が増加したことから前年を上回った。12月は、暖冬の影響で鍋物商材は鈍かったが、惣菜や加工品の増加、セール効果などから食料品が増加したことから前年を上回った。1月は、前年を上回った。



	2019年 10-12月	2019年 10月	11月	12月	2020年 1月
RDEI (消費*1)	6.7	3.7	2.2	1.6	
百貨店・スーパー(*2)	1.3	5.7	1.0	0.4	2.6
コンビニ(*2)	7.9	8.2	8.4	7.2	
乗用車(*3)	6.2	15.1	1.9	1.5	11.3
(季節調整値)(*3)	7.4	22.6	17.0	9.9	4.6

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

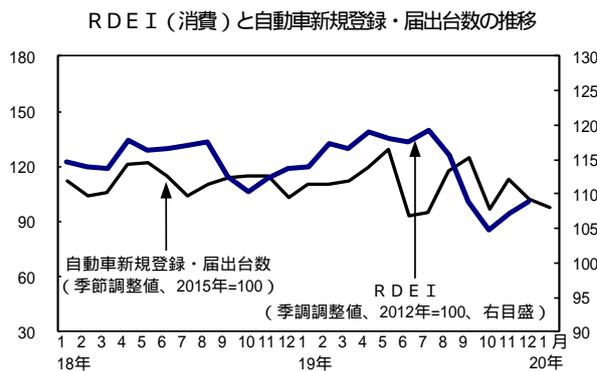
2. 前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは経済産業省調べ(店舗調整前)

2020年1月は速報値

コンビニは日本銀行那覇支店調べ

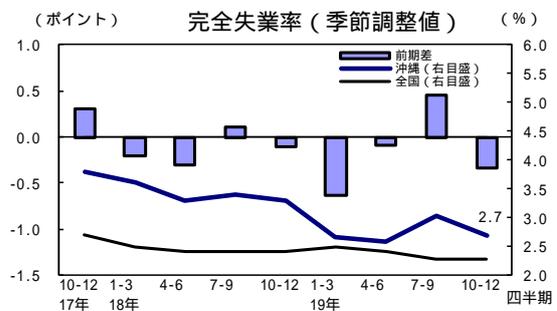
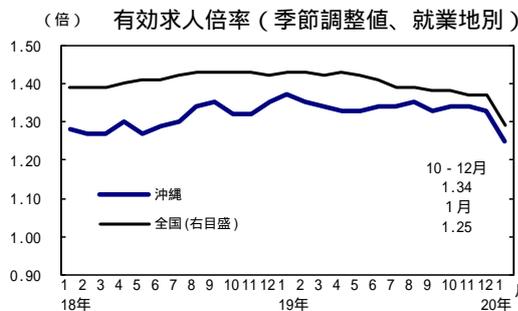
3. 乗用車は、乗用車新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



3. 雇用情勢

雇用情勢は改善している。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 沖縄県「労働力調査」の月次値を、内閣府にて四半期平均化

(13) 景気ウォッチャー調査 (2020年2月調査) 景気判断理由の概要

12. 沖縄

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

		分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		×	・中国観光客の免税売上が減少傾向にあったなか、新型コロナウイルスの影響で更に悪化し、免税売上の影響値が大きくなっている。さらに、感染予防のため、地元客も減少傾向にあり、これまで経験したことのない落ち込みとなっている(百貨店)
				・販売量の動きが前年比70%台で推移していたものが2月は80%まで回復しており、復調の兆しがみえている(通信会社) ・住宅建築等の新規相談者数は、安定して推移している(住宅販売会社) ・現在感染拡大している新型コロナウイルスの影響で、目抜き通りやその周辺までも人通りが少ない。土産屋や飲食関係は特に厳しいのではないかと。今後、国内の景気もかなり落ち込むと予想されることから、旅行者だけでなく、地元の客の購買意欲も半減してくるとみている(衣料品専門店)
				・新型コロナウイルスの影響が気にはなるが、物流という業種柄大きな影響はないと見込まれる。一方、他業種から聞いた話では、大変に影響を受け事業計画を修正するところもあるようである(輸送業)
	企業 動向 関連		×	・牛肉、豚肉、とり肉等原料価格の上昇があり収益が悪化傾向である(食料品製造業)
	雇用 関連		×	・新型コロナウイルスの感染拡大により観光客が減少している(人材派遣会社) ・2月の週平均求人件数の726件は、3か月前の708件と比較すると若干上回っているものの、前年比だと81%で166件も減少している(求人情報誌制作会社) ・新型コロナウイルスの影響で、大型就活イベントが中止決定したことにより悪い方向に向かいそうである(学校[大学])
その他の特徴 コメント				×：新型コロナウイルスの影響により特に大型店への集客力が弱っている(家電量販店) ×：新型コロナウイルスを理由として日本人のキャンセルが多く出ており、止まらない状態である。宴会も中止や延期となっている(観光型ホテル)
先行き	家計 動向 関連			・観光客は減少しているが、地元客が補っているので変わらないとみられる(コンビニ)
			×	・新型コロナウイルスの関係で2月中旬頃から出張予約のキャンセルが増えた。いつ終息するかも分からないので非常に困っている(旅行代理店)
	企業 動向 関連			・現状維持と予測している(窯業・土石製品製造業) ・新型コロナウイルスの影響が基幹産業である観光産業にダメージを与えていることから、県内企業の危機意識が高まり、当面の販促活動を控えるなどの動きがある(広告代理店)
			×	・新型コロナウイルスによる人や金の交流停止が予想以上に長期化している(会計事務所)
	雇用 関連			・新型コロナウイルス感染症のまん延に伴い、ホテル、観光バス、小売など広範囲の観光関連産業の売上に影響が出てくるものとみられ、それに伴い、労働者の休業、解雇が増加するものと考えられる(職業安定所)
その他の特徴 コメント				×：早く新型コロナウイルスが終息しないと、在宅勤務のできない飲食業は死活問題である。一部飲食の宅配が伸びそうではあるが、専門ではない我々では参入は難しい(その他飲食[居酒屋]) ×：新型コロナウイルスの影響で先行きの予約状況は前年比2割減で、更に悪化が見込まれる。終息がみえないなかで具体的な対策もなかなかなく、非常に厳しい状況が続くとみられる(その他サービス[レンタカー])

(D I) 現状・先行き判断D I (沖縄) の推移 (季節調整値)

